

# 高鳥居城

篠栗町の市街地から南

の山並みを見てみると、須恵町との町境に標高681mの若杉山から西方向へ派生する尾根上のピーク（標高382m）があります。

その昔、この尾根上には遠くからも見える非常に大きい鳥居があったことから「高鳥居山」（岳城山）と言われたそうです。

そこからの眺望はすばらしく、福岡平野や遠く博多湾が見下ろせます。

永仁元（1293）年に探題北条兼時に従つて来た、長門の国の河津

弥次郎筑後守貞重が、糟屋郡追門河内700町歩を賜り、尾仲の庄に居住しました。河津氏は、高鳥居山に塁を新築し、探

題附庸の城としてこれを守りました。

元弘3（1333）年、北条幕府の滅亡と同時期に、河津氏は、この城を去っています。

その後、大内氏の重臣杉豊後守興行が大内氏より糟屋郡を賜つて高鳥居城に築城して表糟屋郡を治めていましたが、天文20（1551）年、大内

氏が滅びると子息の杉弾正忠重と杉権頭連並が高鳥居城を守っていました。

しかし天正14（1586）年、北上してきた島津氏が筑前に侵入。秋月種実を先頭に、宝満・岩屋城を攻め落とし、高鳥居城をも攻め取りました。島

津の軍は勢いそのままに、立花宗茂が居城する立花城までもせまる勢いでした。けれども、敵方の豊臣秀吉の大軍が攻めてくるのを知り、

筑後の豪族である星野中務大輔吉実と民部少輔吉兼兄弟を高鳥居城にしんがりとして守らせ、島津義弘は、撤退していききました。

高鳥居城の激闘は、豊臣勢側の毛利氏の猛攻にあい二時間ほどで城は炎上し、落城してしまつたそうです。

高鳥居城を死守していた星野兄弟は、首をとられ当時の堅糟村吉塚（今の博多区吉塚）に葬られました。当初吉実塚と呼ば

れていたのが、後になり「吉塚」と名前を変えたといわれています。今ではその場所に吉塚地藏尊が祭られています。

このように高鳥居城は、戦いの要衝として非常に重要な役割をはたしていたそうです。

※参考文献

『篠栗町誌』

『福岡古城探訪』

篠栗町歴史民俗資料室

